

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 渡邊 美貴

論 文 題 目

Declining trends in prevalence of *Helicobacter pylori* infection by birth-year in a Japanese population

(減少する *Helicobacter pylori* 感染率：出生年別にみた日本人の傾向)

論文審査担当者

主 査

委員

名古屋大学教授

石井 晃 


委員

名古屋大学教授

若井 達志 

委員

名古屋大学教授

葛島 清隆 

指導教授

名古屋大学教授

田中英夫 

## 論文審査の結果の要旨





日本人集団において、出生年が最近になるにつれて *Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 感染率と胃癌ハイリスク者割合が減少傾向であることを示した。さらに、*H. pylori* 感染率は 1949～1961 年生まれで、胃癌ハイリスク者の割合は 1942～1972 年生まれで劇的に減少するという特徴を明らかにした。*H. pylori* 感染の胃癌に対する寄与割合の大きさから、日本の胃癌の減少傾向は今後も続くものと考えられる。2013 年 2 月慢性萎縮性胃炎をともなう胃潰瘍、十二指腸潰瘍の患者に対して、*H. pylori* 除菌治療が保険適用となった。このことは *H. pylori* 感染者を減少させる period 効果が考えられることから、日本人の *H. pylori* 感染率を観察し続ける必要があると考える。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 血清ペプシノゲンは胃の萎縮の指標であり、*H. pylori* 感染からの年数つまり年齢の影響を受けるため、胃癌ハイリスク者割合の方が、より古い出生年から急激な減少が始まると考えられる。
2. 胃癌ハイリスク者には、胃の萎縮が進んだことにより *H. pylori* 抗体が陰性化した感染者が含まれ、真の *H. pylori* 感染率に近いと考えられる。*H. pylori* 感染は生まれてすぐではなく、幼児期に成立すると考えられることから、終戦前に生まれ、終戦後（1945 年）以降に幼児期を過ごした者において、感染率が急激に減少すると考えられる。
3. 既報より、血清 *H. pylori* 抗体の判定に用いた cut off 値は、尿素呼気試験を基準とした場合、感度 90.7%、特異度 91.5%、胃の萎縮の判定に用いた血清ペプシノゲンの cut off 値は、内視鏡検査による慢性萎縮性胃炎を outcome にした場合、感度 87.5%、特異度 84.9%と報告されている。今回用いた基準値は、胃癌リスク（ABC）検診でも用いられ、基準値として適当であると考えられる。
4. 病院初診患者ではあるが、*H. pylori* 感染と関連が報告されている胃癌、MALTリンパ腫の患者を除外したことから、一般人と大きく違うとは考えにくい。さらに、今回の目的は出生年別の prevalence の絶対値を示すものではなく、prevalence の傾向を検討することであり、対象者の出生地域の違いからジョインポイントが前後することは考えられるが、prevalence の傾向は大きく変わらないと考える。
5. 胃癌に対する *H. pylori* 感染の寄与割合を考えると、今後も胃癌の罹患率は減少傾向を示すものと考えられる。将来、*H. pylori* 感染が 5%前後になれば胃癌の罹患率も大きく減少することが考えられ、政策的な胃癌検診そのものの必要性もなくなる可能性が考えられる。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	渡邊 美貴
試験担当者	主査 石井 晃  石井 建志  葛島 清隆 			
	指導教授 田中 英夫 			

## (試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 割合が急激に低下し始める出生年が、*Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 感染者よりも胃がんハイリスク者の方が昔の出生年になることについて
2. 胃がんハイリスク者の割合において、急激な低下を始める出生年が、終戦(1945年)より前の出生年であることについて
3. *H. pylori* 感染者、胃がんハイリスク者の定義に用いた血清*H. pylori* 抗体価、血清ペプシノゲンの基準値について
4. 日本のprevalence に対する、研究対象集団のprevalence の妥当性について
5. 今後の日本の胃がんの罹患率の動向と胃がん検診について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、疫学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。